

令和4年5月13日

魚沼市議会議長 関 矢 孝 夫 様

産業厚生委員会  
委員長 佐 藤 肇

産業厚生委員会調査報告書

本委員会は、所管事務について下記のとおり調査したので、魚沼市議会会議規則第110条の規定により報告します。

記

- 1 調査事件名 (1) 現地調査
  - ・須原スキー場
  - ・小出スキー場
  - ・薬師スキー場(2) 現地調査の総括
  - ・須原スキー場
  - ・小出スキー場
  - ・薬師スキー場(3) その他
  
- 2 調査の経過 5月12日に委員会を開催し、須原スキー場、及び小出スキー場の現地調査を行った。  
5月13日に委員会を開催し、薬師スキー場を現地調査し、その後、各スキー場についての総括を行った。  
その他で、今後予定されているガス料金の上限撤廃について意見交換を行った。

# 産業厚生委員会会議録

## 1 調査事件

### (1) 現地調査

- ・須原スキー場
- ・小出スキー場

### (2) その他

2 日 時 令和4年5月12日 午後1時30分

3 場 所 ・須原スキー場 センターハウス  
・小出スキー場 見晴らしの湯「こまみ」

4 出席委員 佐藤達雄、浅井宏昭、大桃俊彦、富永三千敏、志田 貢、佐藤敏雄、  
渡辺一美、佐藤 肇、高野甲子雄、(関矢孝夫議長)

5 欠席委員 なし

6 説明員 なし

7 書 記 佐藤議会事務局長、大竹主任

## 8 経 過

開 会 (13:30)

佐藤(肇)委員長 定足数に達しておりますので、ただいまから産業厚生委員会を開会します。

### (1) 現地調査

佐藤(肇)委員長 日程第1、現地調査を議題とします。日程に従いまして現地調査を行います。ここでしばらくの間休憩します。

休 憩 (13:30)

休憩中に現地調査(須原スキー場、小出スキー場)

再 開 (20:06)

佐藤（肇）委員長　休憩前に引き続き会議を再開します。日程第1の現地調査については、後日、総括を行いたいと思いますがご異議ありませんか。（なし）そのように決定しました。他に委員の皆様から何かございませんか。（なし）ないので本日の委員会につきましては以上とさせていただきます。本日の会議録の調製については、委員長に一任願います。本日の産業厚生委員会はこれで閉会します。

閉　　会（20：06）

## 産業厚生委員会会議録

1 調査事件

**(1) 現地調査**

・薬師スキー場

**(2) 現地調査の総括**

・須原スキー場

・小出スキー場

・薬師スキー場

**(3) その他**

2 日 時 令和4年5月13日 午後1時30分

3 場 所 薬師スキー場 「ヤッコム」多目的ホール  
本庁舎3階 委員会室

4 出席委員 佐藤達雄、浅井宏昭、大桃俊彦、富永三千敏、志田 貢、佐藤敏雄、  
渡辺一美、佐藤 肇、高野甲子雄、(関矢孝夫議長)

5 欠席委員 なし

6 説明員 なし

7 書 記 佐藤議会事務局長、大竹主任

8 経 過

開 会 (13:30)

佐藤(肇)委員長 定足数に達しておりますので、ただいまから産業厚生委員会を開会します。

**(1) 現地調査**

佐藤(肇)委員長 日程第1、現地調査を議題とします。日程に従いまして現地調査を行います。ここでしばらくの間休憩します。

休 憩 (13:30)

休憩中に現地調査(薬師スキー場)

再 開 (15 : 05)

佐藤（肇）委員長 休憩前に引き続き会議を再開します。

## （２）現地調査の総括

- ・ 須原スキー場
- ・ 小出スキー場
- ・ 薬師スキー場

佐藤（肇）委員長 日程第２、現地調査の総括を議題とします。スキー場の現地視察をそれぞれしていただきましたので、その総括ということでさせていただきたいと思います。昨日は２か所、本日は１か所のスキー場をそれぞれ見て、意見交換をさせていただいてきました。関連もありますので、３つまとめましてそれぞれ御意見、また感想等言っていただければ、それをまとめて本日の総括とさせていただきたいと思いますが、それによろしいでしょうか。（異議なし）では、そのようにさせていただきます。

関矢議長 すみません、休憩をお願いします。

佐藤（肇）委員長 しばらくの間、休憩といたします。

休 憩 (15 : 06)

(休憩中に懇談的に意見交換)

再 開 (15 : 07)

佐藤（肇）委員長 それでは休憩を解き、会議を再開いたします。

今ほどあった中で、将来に向けて持続可能という部分を大事にしていきたいと思います。またそれぞれスキー場から課題が出たと思います。その辺を含めて話を出していただければというふうに思います。佐藤達雄委員のほうからお願いします。

佐藤（達）委員 はい。各スキー場に共通かなという気がするんですけども、須原スキー場のほうで、例えば索道等についてはオーバーホール。きちんと、あるサイクルですとなると、一回必要な補修、部品交換等をやって、そうすれば定期化して予算的に行っていくか、決まった年度で何か実行できるのではないかなというお話もありましたので、そういうのって大事なことなんじゃないかなという気がしました。そういう方向でまた市のほうにもそういったところを確認していけたらなと思います。あとは、圧雪車のほうも、本当はかなり掛かっているようで、物によっては900万を超えるというところもあるようです。これは800万を超えたら限界というお話もありましたので、圧雪車も含めて必要な費用のほうを確認しながらやっていくべきかなというふうに感じました。

それから費用対効果の話がありましたけれども、やはり各スキー場のほうで経済効果、それぞれ須原スキー場は経済効果を出されていましたが、そういう経済効果もあり、また地元のほうでは民宿もやっているわけですし、そういったこともこれからまた評価をしながら持続可能なものに向けてやっていくことが必要じゃないかなと。やっぱり市のほ

うから負担がありますけれども、それを赤字補填ということではなくて、必要な経済効果を生み出している。そういう視点がまた大事なんじゃないかなと思いました。

あと、小出スキー場は、3スキー場それぞれに特徴、特色があって、小出のほうは学校の教育と健康づくりということでした。そういう中で、小出スキー場からは無償貸与、これが無理というお話は意外だったんですけども、その背景としては索道等についてはスポーツ振興公社、こういったところでまとめて各スキー場のメンテナンスをやっていくことによってそうすれば、事業者に対して無償貸与ということはなくなりますので、そういった考えかなと伺いました。これも1つの方法かなと思いますけれども、それぞれの事業者のほうでメンテナンスの技術、須原スキー場はかなり進んでいるという中で、それに対して小出や薬師のほうはかなり製作者のほうに依存しているというところが高いと思いますので、これから全体的に技術を上げていく。そういうところへ一本化するっていうのをそれなりのまた、時間が必要ではないかなという気がしました。

それから今日の薬師スキー場とのやりとりの中で、やはり無償譲渡ということになると、それに対する懸念が出されて、もし経営が立ち行かなくなった場合に、それに対してリフトの撤去ですとか、そういったところを事業者のほうで賄わなければならないということになると、とてもこれは受けることができないというところもまた、これはしっかり考えていかなければならないかなと思います。薬師さんの場合は、やはりシングルリフトで安全性が非常に問題ということがありますので、できるだけ早く更新のほうに向けて動いていったらなというふうに感じました。まずは以上です。

浅井委員 これは3つのスキー場に考えられることなんですけれども、昨日の小出スキー場の上村先生がおっしゃっていたスポーツ公社のような団体を立ち上げて、市のほうから間接的に支援をするというこの考えは、私はいいんじゃないかなと思いました。

あとはですね、須原スキー場だけが抱えている問題として、借地代がかなり足枷になっているという話も。昨日は出なかったですが、聞いております。中には、1万円の借地代の人もいれば数十万の人がいるというような話を聞いてますので、この辺を軽減させるためには須原スキー場のために土地を無償で貸してくれないかというような話をできればいいんですけど、きっと難しいかなという気がします。

あと、第3駐車場の除雪が須原スキー場が今かなり大きい足枷になっているようで、ここも、もう一度しっかり考えていかないと継続していくのは難しいかなと思います。以上です。

大桃委員 率直に、3つのスキー場がそれぞれの特徴があるというのは考えておりましたけれども、市の示すランドデザインの中の3つのスキー場がそれぞれ1つになっていくという考え方の中には、一応は方向性は賛成するというものの、今言ったそれぞれの特徴のあるスキー場の考え方を示しながら検討していくというところには、やはりいろんな持ち味があると思いますので、その辺の隙間を埋めていくために私どもも執行部側も苦慮していくのではないかなというところは感じ取りました。

須原スキー場は株式だったが、他のところはNPOだという問題で、なかなか難しいなという声も聞かれてきましたし、小出のスキー場では前のお二方が言ったようにスポーツ公社を立ち上げていくんだという、そして今までやってきた実績の中で今後も進めていくんだという考え方の中、そして今日の薬師スキー場はペアリフトを前面に打ち出してきて

考えてられている。それ1本にしかそこへいけないというようなことの中からするとですね、市や我々が入ってから3つのスキー場といろいろと話し合いをしていく中でうまくいっていただければ幸いで、そっちの方向に向いていくんでしょうけれども、同じ方向を向けながらもいろいろ難しい点が出てくるのではないかなというのが1つの感想として持ち帰ってきたところであります。以上です。

富永委員 3スキー場それぞれに特徴があって運営しているわけですがけれども、平成25年の民営化ということで無償貸与をもってシーズン開始前に必要なメンテナンスをして、あとは事業者で頑張ってくださいというのが最初でしたよね。それが市長が替わり、今度は無償譲渡を前提に考えてもらいたいというのがあって、また今回、無償貸与ということで2年延長ということで決めました。今回ようやく4月の中頃になって、それぞれ3つのスキー場の特徴を活かした誘客だとか、ターゲットをもってやるということと、将来的には1つの事業者によって欲しいという市の考えが出て、それを示されて議会として納得したわけですよ。ですので、それを今後どういう風に変現できるかというところが問題であって、現在の2年延長したのをこのままの状態で行うのか、あるいは昨日や今日も話が出ていましたけど市有財産のままにしておいて運営だけを各事業者任せるという方法も、当然ゼロではないと思うんだけど、その辺を何がいいのか、それこそ持続可能な方法としてどれが適切なのかというのを考えていかななくてはならないし、あまり難しい条件にして事業継続ができなくてもこれも困る。必要以上ということか予算をたくさん投入はできないというのがありますので、その辺をどうやっていくのかというのが難しいです。これまでの間、議会のほうで提言書の中にそういった条項も入っていましたが、それを集約した形で市の提案だったので、それをどう実現していくのか事業者と議会と市でもって協議しながら進めるのが課題かな。

1つの事業者とするには、2つがNPOで会員の会費でもって成り立っている。一方が株式会社に出資があったりしている。形態が違うので、単純にはいかず難しいんだろうけども、これは専門家なりの言葉を借りながらどうすれば1つの会社になれるのか、NPOになれるのか。あとはそれぞれの会社の出資者、NPOの会員がどう納得するがというのもあるので、自分で前回10年なんて時間が長すぎるから早くしないとだめだと言ったんだけど、できるだけ早い内に進めることが必要です。3つのスキー場をどうやって残せるかという、現在の方向でいくのか、また形を変えるのか、そこらの検討を皆でやるべきではないかということを感じました。以上です。

志田委員 まず、最初に須原スキー場なんですけども、いただいた資料の基本方針の中に、地域と共にある魚沼須原スキー場を目指しますという、こういう文言があるんですけども、地域のいろんな分野の方を巻き込んでとか取り込んで、スキー場関係者だけでなくいろんな業種の方をスキー場に関連させるのが大事なことなんだろうなと感じました。それも含めて、スキー場に携わっている従業員の皆さんが高齢化になっています。実際問題、須原スキー場に関しては、約40名から45名という従業員の方がおられるんですが、年々人を集めることが厳しくなっている状態だと思っております。そういった意味では、3つのスキー場が連携することによって色んなことがサポートできる。お互いが助け合うことができるのではないかなと思っております。

先ほど浅井議員のほうから、第3駐車場の除雪の件が話がありましたが、その部分に

関しても、私の経験上では、除雪は従業員じゃなくてもできると思います。そういった意味でのいろんな方と地域と連携していくという部分は、物凄く大事なのではないかなと思いました。それから、小出スキー場に関しては、最後に関矢議長が駐車場に関して質問したんですけども、その部分がやはりだいぶネックになっているのではないかなと思います。駐車場を整備することにより、また幅広くPRできるのではないかなと感じました。それから薬師スキー場に関しましては、一刻も早くペアリフトを建ててあげたいというのが、私の率直に感じた部分であります。以上です。

佐藤（敏）委員　3つの会社に訪問させていただきましたけれど、それぞれ特徴があって頑張っているなという風に感じましたけれども、このままでいったらだめになる。今回提案のあった一体化ということで、10年かかる、それ以上かかるなということではなくて、とりあえず索道とか圧雪車とかそれについては、この次から具体的に1つの取り組みをしていく。一方、エリアとの話がありましたけれども、棲み分けをきちんとしてお客をそういう形の中で誘導していくというような具体的な方策を取っていかないと1つも変わらないと思いますので、とりあえずそういった形の中でできることから来年以降実施する、これを最優先でやっていただきたいと思います。以上です。

高野委員　3つのスキー場はどこも、残す方向でこの間、非常に努力をしてきているなというのが実感いたしました。これについては持続意欲ということで、今言いましたように経済効果もあれば教育から郷土愛とする意見もあります。いずれにしても、非常に経営努力をしているというのがよく感じられたと思います。そういうことで、議会としても残すという方向で対応をすべきではないかというふうに感じました。今皆さんも言いましたように、問題は設備の維持管理になろうかというふうに思いますので、具体的な提案もなされていますので、それらも含めて議会のほうとしても対応、それから行政対応も含めて考えていかなければというふうに感じました。それからあとは、薬師のリフトの架け替えについては、行政も議会も努力していかなければならないのではないかというのを強く感じました。以上です。

渡辺委員　皆さん方からお話して下さったことに、その上でという話にさせていただきたいと思います。須原スキー場の借地の問題ですとか、駐車場の問題ですとか、そういったことも考えていかなければいけない。そして、確かにリフト、それから圧雪車、これが皆さん大変だというお話でしたけれども、実際に行ってみるとセンターハウスですとかリフトの乗り場ですとか、やはりかなりそれぞれの施設も老朽化しています。今回、市のほうからリフトと圧雪車だけでも10年単位でもって計画を出せという話でしたけれども、これは公共施設の再編のほうと絡むかもしれませんが、市が持っている施設についてはこれは当然10年単位のスパンで塗り替えるなり張り替えるなりといったことが必要かというところもしっかり見ていかなければいけないなというふうに思いました。

その他、例えば小出スキー場でしたら駐車場の位置を変える。あるいは須原スキー場でしたら駐車場の借地を解消するためにどこに駐車場を持っていけるかとか、そういった将来の展望も踏まえて、ただ今を維持していければいいんだというような考え方ではないというのが非常によく分かって、今回現場を見せていただいて良かったなという風に思っています。

そういった意味では皆さん方からも先ほどお話が出ていますけれども、運営自体という

かそれぞれのスキー場のお客の取り方ですから営業ですとか、そういったところはそれぞれに任せられるが、施設や建物も含めて設備についてはやはり何とかして1つの会社なりで、そしてまた10年スパンなり考えなければいけないのではないかなというなお話がありました。市で今までどおりやっていると、どうしても単年度主義です。そしてまた予算が限られている中で、毎年結局7,000万なり8,000万なりを維持していこうというような考え方が市の考え方になってますから、そうではなくて、やはり手法の1つとしてPFIなりそういったものをきちんと、どう導入できるかっていうところは、議会も一緒になって学んでいかなければいけないのではないかなという感じがします。PFIの手法を使えば、10年あるいは30年スパンで出すという形もできます。そうすると毎年の経費を考えながら、雪がない時でもその方達の雇用も維持していけるとか、ボランティアだけでいいのかといった、いろんなことも総合的に今後どうしなければいけないということは、やっぱり考えていくべきです。ボランティアで何かができるのではなく、ちゃんと一丁前の人間がちゃんと仕事ができるというスキー場運営にしていくために私達は考えていかなければいけないなと痛感しました。以上です。

佐藤（肇）委員長　それでは私から。3つのスキー場に行って、それぞれ事業者の皆さんからお話を聞くことができ、ここ10年間、取り組んでこられたことがスキー場事業そのものにかなり、それぞれの方達が自信を持って取り組んでくれるようになってきたなというところは感じました。ただ、薬師スキー場について、私は今までスキーの事業者はヤッコムとかいろんな周辺も合わせて一体でやってるものだと思っていたんですが、今日お話を聞いたところによるとスキーはスキー、あとは管理組合という、その辺で財政的な部分といいますか、スキー場単独でやっているところでやっぱり他と比べて弱いのかな。その辺、地域がどのように取り組んでいるのか、今後変わっていけるのかなというところと、ここがうちは弱いんだという話が聞けたと思います。やはりそれが、継続的にやっていくためのこれからの1つの大きな課題なのかなと思います。

それから索道、圧雪車だけでも別会社にするといいますか、いろんな作り方はあるかと思うんですけども、ここに一括任せにしてそれでそこに市が金を出していく。要は無償貸与の体制を解消できれば、1つはいい方法になるんじゃないかなという気がします。ただ、そこにどういう形で公のお金が入れていけるのが、これから大きな課題になってくるのかなと思います。今、行政財産として扱ってきた部分についてはお金は付けられるけど、なかなか民間が財産を持っているものについてはどうやって補助を出していけるんだという、その国県等の支援がかなり難しくなってくる部分もあるのではないかなというのが、私の懸念するところですが、やり方とすれば、そういうところから手を付けていかなければいかなかな先に進んでいかなければいかなかなと思いますので、その辺について今後また勉強させていただければなと思います。

あと、それぞれのスキー場、事業に本当に特色があるのはよく分かりましたし、それぞれ連携できる場所はあると思うんですが、今日聞いた中でも全てボランティアだと言われると、なかなかあっちへ行ってくれこっちへ行ってくれと、その辺のも難しいのかなと。そうかと言いつつ、今薬師さんそれぞれ出してもらっている人にお金を払うほど銭はないというところだろうと思うんで、実際の経営体の中身というのが市が掴んでいるあの数字

と今日見てきて、まったく違っているというのを感じましたので、その辺についてまた調査を続けていきたいなと思いました。継続的にまだやっていかなければということで、私の意見とします。

佐藤（肇）委員長　ほかにございますか。

渡辺委員　いいですか。10年計画それぞれ出してるって言ってましたので、それはまず私達見せていただきたいなというのが1つあります。須原は10年分出して、ただこれとこれは待ってくれと言われているデータは、私達も出ていますか。

佐藤議会事務局長　細かい数字ではなく、大まかな数字で出している。

おおよその額が今、こっちに出ている。そのバックデータはまだです。

渡辺委員　そうですね。だからやっぱりバックデータであったとしても見せてもらわんことにはと思っていますので、きちんとそこら辺を見せていただくのと、とりあえず10年という話と。それから、公共施設の中でスキー場にある、ああいったものっていうのは、中に入っていたのかなとちょっとあるので。全部入っていましたか。公共施設の白書の中に、市が持っているスキー場の施設みたいなものはみんな入っていましたよね。

佐藤議会事務局長　全部は入っていないと思います。

渡辺委員　そうすると、小出でもレストランに使っているハウスですとか、そういったものがどうなのかなというのがあるので、それをどうにかしないとならないということもあるのかなと私は思っています。スキー場を公共施設から抜かすのであれば、逆に私達がそこを全部網羅した上でもって、今後どういう風にしていくのか。須原のほうでは自分達でもって修繕してると言ってましたよね。それで本当にいいのかどうかというのものもあるから。

佐藤事務局長　いい悪いではなくて、今はそういうやり方をお願いしている。

渡辺委員　無償貸与でね。貸与にしている中にハウスも入ってますか。

佐藤議会事務局長　指定管理みたいに、しっかりした契約になっていない。そのほうが問題。だからお金をどれだけ出すというのかなりアバウトになっている。お金の積み上げがどうなっているのか知りたいという話になると、今のやり方自体がざっくりし過ぎている。

渡辺委員　なので、それをきちんと調査させていただきたいということをおっしゃっていただきました。以上です。

佐藤（肇）委員長　しばらくの間、休憩にします。

休　　憩（15：34）

（休憩中に懇談的に意見交換）

再　　開（15：36）

佐藤（肇）委員長　休憩を解き、会議を再開いたします。

渡辺委員　例えば、この委員会でPFIの勉強会をするために、参考人ですとかというようなことはできますか。

佐藤（肇）委員長　休憩にします。

休　　憩（15：36）

(休憩中に懇談的に意見交換)

再開 (15 : 37)

佐藤(肇)委員長 休憩を解き、会議を再開いたします。他に委員の皆様から意見等はありませんか。(なし) ないようですので、現地視察の総括については以上といたします。

### (3) その他

佐藤(肇)委員長 日程第3、その他を議題といたします。その他はございませんか。

渡辺委員 前回の委員会の時に、ガス条例の上限撤廃の条例改正の話が出ました。その中で、確かに今の価格高騰を受けて撤廃しなければいけないという状況は分かりましたが、プロパンガスとのエネルギーベースと言うんでしょうかね。そこの値段との差、そしてまた条例の上限を付けているという意味というのは、やはりこういった緊急事態の時にも住民を守るという趣旨であったはずの上限の設定でありますから、それを簡単に撤廃していいのか。是非、魚沼市の、例えば入広瀬の人が煮物するのに倍の値段のガス代がかかって、小出の人は半分の値段で煮物ができるというのも私はおかしな話だと思いますので、そういったところをこの委員会で調査できませんでしょうか。

佐藤(肇)委員長 現状ということですが。それは資料を請求すればできます。プロパンガス、それこそ湯之谷地区ですとプロパンと都市ガスが半々くらいですよ。今でもプロパンを使っているところもあります。よく分かると思いますし、他のところはガス事業者はかなりのたくさんあります。どこかこう、農協とか。

渡辺委員 それは、例えば産業厚生ではなくて商工課のほうでもって、今の事業者は金子さんや農協さんがどういう料金体系だとかをまず聞かせてもらったりですとか。

佐藤(肇)委員長 そういふのはもう公になってる部分があるので、ガス水道局で調べて資料を持っていますから、出してもらえenと思います。

渡辺委員 その辺りをきちんと答えられるような形にするのと、6月定例会にはその条例をどうするかというのを向こうは提案してこようと思っているわけですから、その前に委員会としてそれをどういうふうにかんがえるかということが必要だと思いますので、早めをお願いします。

佐藤(肇)委員長 はい、分かりました。

佐藤議会事務局長 この間、説明して、委員会の方から注文を付けられたので、私としては当然執行部のほうは今委員がおっしゃったように条例改正に出してくれば前回言われたことに答えられるようにして、6月23日の産業厚生委員会に戻ってくるものだと思っています。その先端に、もう一回やらないとならないという話ですか。

渡辺委員 あのまま絶対出してきましたということですか。それは分かりませんよね。

佐藤議会事務局長 出なければこういうことを聞かれるよということで。

渡辺委員 それは当然ですけど、今私が言っているのは、例えば上限を撤廃という話ですけれども、では緊急事態に備えてある程度を今回少し上げようとか、そういう形でこの上げた部分について市がもうこの4月からは赤字になって、市が投入している分が少なくなるんだとしたら、その分じゃあプロパンだとか何かの人達に対してどうするんだという

ような議論があってもいいと思います。

富永委員 渡辺委員が言われる上限を当初作ったという目的が、生活を守るためなのか。違うでしょう。加入者を増やすためにしたんじゃないんですか。

佐藤（肇）委員長 しばらくの間、休憩といたします。

休 憩（15：41）

（休憩中に懇談的に意見交換）

再 開（15：46）

佐藤（肇）委員長 休憩を解き、会議を再開いたします。今ほど渡辺委員から出た意見については、またガス水道局へ話をしていきたいと思います。他に委員の皆様から何かございませんか。（なし）ないようですので、会議録の調整については委員長に一任をお願いいたします。これで本日の産業厚生委員会を閉会いたします。

閉 会（15：47）